

令和4年度 第4回 真庭市子ども・子育て会議 次第

日時 令和5年1月19日(木) 19:00から

場所 真庭市役所 本庁舎 2階大会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

(1) 久世地域における園整備のあり方について

4 閉 会

真庭市子ども・子育て会議 委員名簿

任期：令和3年7月27日から令和5年7月26日まで

（五十音順・敬称略）

	氏名	現役職等	備考
1	池田 保	真庭支部小学校PTA連合会 会長	
2	内田 典子	真庭市男女共同参画推進委員会委員	
3	江口 祥彦	真庭市健康福祉部 部長	
4	川崎 美名子	真庭市保育協議会 会長	
5	小谷 彩香	真庭市内の園の保護者会代表（蒜山・美甘・湯原地域）	
6	佐藤 和順	佛教大学教育学部幼児教育学科教授／岡山県立大学名誉教授	会長
7	庄司 憲子	NPO法人子育て支援の会サポートあい 理事長	
8	杉本 喜美恵	真庭市愛育委員会 会長	副会長
9	高田 洋一郎	真庭市内の園の保護者会代表（落合・北房地域）	
10	額田 佳克	岡山県美作県民局福祉振興課 課長	
11	二若 仁美	真庭商工会 女性部副部長	
12	前田 浩志	真庭市内の園の保護者会代表（久世・勝山地域）	
13	松尾 浩	真庭支部小学校校長会 会長	
14	安田 明美	放課後児童クラブ連絡協議会 会長	

前回（第3回会議）のまとめ

【主なご意見】

- ・園児向けの給食提供ができるというのは理想的だなと思うので良い方向に向かっていただきたい。
- ・デメリットを潰していくのが一番の案の模索になるのではないかなと思う。
- ・各園に自園給食ができるような施設を作るという案もあり得るが、財政的な面も調整していかなければならない
- ・敷地では久世こども園が一番広いと思うが、仮に久世こども園に給食施設を作るとなれば園庭自体がものすごく小さくなってしまう。
- ・今まで一番話題に上っていたのは、まずは施設の老朽化を何とかしようというのがあったかと思う。特に久世保育園、久世第二保育園の老朽化を何とかしよう、そして二番目が久世地域の子どもの受け入れ状態を考えて0歳児から2歳児の受け入れをいかに増やしていくか、そして三つ目に給食をなんとか幼児向けの給食ができるようなそういった体制を整えたい。加えて、総定員を増やすことは非常に難しい。
- ・0～2歳児の食事は人間の基礎を作っていくので、とても大事だと思う。だから、自園で提供できるように考えてもらいたい。
- ・センター方式でも悪くはないと思うが、自園調理だと匂いだとか、子どもが見に行ったりとか、食育ということを大事にしているので、可能な限りそういった方向も模索していけば良いと思う。
- ・調理室はあまり広くは必要ないと思う。外に作るだけでなく、中に空いている部屋とかを利用して作るという可能性もあると思う。
- ・老朽化の年数を見ると、これは急務な対応が必要だと思う。
- ・集約し、0～2歳児の受入れが増えるのであればより良いことだと思う。
- ・センターで作り、新設の園を広く作るのが最善かなと思う。
- ・老朽化、給食、定員などあるが、もう一つ考えてほしいのは、持続可能な体制。全てを広げていくのは難しいことだと思う。ここは維持して、ここは拡充するという方向に持っていくべきではないかなと考える。
- ・老朽化が一番の問題になってくると思う。老朽化に対しては、その場所か別の場所で建て直すことになるので、地域のことや民間の園ができるということでその関係性も考慮しながら対応していくのが現実的だと思う。

【久世地域の園整備の観点】

- ①老朽化への対応
- ②0～2歳児の受入れの拡充
- ③園児向けの給食提供
- ④域内の総定員はこれ以上増やさない
- ⑤持続可能な体制（将来的な園児数の推移、見合う職員確保、財政面）

【参考資料】

（「真庭市子ども・子育て支援施設整備計画」より）

施設整備の基本的な方向性

～乳幼児期における教育・保育の選択肢を広げる～

①幼児教育施設

- ・ 認定こども園の設置等により、市内のどの施設においても同様に、子どもの預け入れを可能とすることで、教育・保育環境の向上を図る
- ・ 公営及び民営の施設がそれぞれの役割を担い相互に協力することで教育・保育環境の向上を図る

②つどいの広場

- ・ NPO 法人等の多様な主体の参画による地域の支え合い、子育て中の当事者による支え合いにより、地域の子育て力の向上を図る

※次ページ以降の想定について

- ・ 数値はあくまでも検討にあたっての目安です。
- ・ 新設・建て替えの場合について、本日は、設置場所にとらわれず協議を行います。

想定 1

- ・久世保育園、久世第二保育園を建て替え又は新設（場所は未定）
- ・久世地域全体の定員数（460人）に収まるよう各園の定員を調整
- ・新しい園に自園調理か他園（久世地域の公立園）を賄う規模の園専用給食センターを増設又は新しく園専用給食センターを整備し、他園へ提供

園名	定員	保育園部	【想定】	建物 経年数	給食
		幼稚園部	0～2歳児受入数		
草加部	20	-	0	17	新設園又は 園専用給食センターから搬入
		20	-		
久世 保育	65	65	30	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		-	-		
久世 こども	108	86	0	25	新設園又は 園専用給食センターから搬入
		22	-		
久世 第二	65	65	30	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		-	-		
米来	40	30	0	28	新設園又は 園専用給食センターから搬入
		10	-		
計	298	246	60	-	
		52	-		

愛慈園	40	40	40	21	自園
		-	-		

新民間	122	仮	50	新築	自園
		110	-		

久世地域 計	460	396	150	← 想定受入人数の合計
		64	126	← 現在の受入人数

- ・案①ベース
- ・各園の定員数を調整

想定 2

- ・久世保育園、久世第二保育園を集約して新しくこども園を整備（場所は未定）
- ・新しい園に自園調理か他園（久世地域の公立園）を賄う規模の園専用給食センターを増設又は新しく園専用給食センターを整備し、他園へ提供へ提供
- ・草加部幼稚園の機能は久世こども園へ集約

園名	定員	保育園部	【想定】	建物 経年数	給食
		幼稚園部	0～2歳児受入数		
新設 こども園	138	120	60	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		18	-		
久世 こども園	110	75	0	25	新設こども園又は 園専用給食センターから搬入
		35	-		
米来	50	35	0	28	新設こども園又は 園専用給食センターから搬入
		15	-		
計	298	230	60		
		68	-		

愛慈園	40	40	40	21	自園
		-	-		

新民間	122	仮 110	50	新築	自園
		12	-		

久世地域	460	380	150	← 想定受入人数の合計
計		80	126	← 現在の受入人数

- ・案②ー 2ベース
- ・「真庭市子ども・子育て支援施設整備計画」の基本的な方向性から、認定こども園の設置を選択
- ・0～2歳児の受入れがない久世こども園の現在の受入れ人数を考慮し、定員数を減らし、新設こども園にその分を増加

想定3

- ・小規模保育事業所を新しく整備（場所は未定）
 - ・久世保育園、久世第二保育園を集約して**新しくこども園**を整備（場所は未定）
 - ・新しい園に自園調理か他園（久世地域の公立園）を賄う規模の園専用給食センターを増設又は新しく園専用給食センターを整備し、他園へ提供
 - ・草加部幼稚園の機能は久世こども園へ集約
- ※小規模保育事業所・・・定員 6～19 人、原則 0～2 歳児

園名	定員	保育園部	【想定】	建物 経年数	給食
		幼稚園部	0～2歳児受入数		
小規模 保育	19	19	19	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		-	-		
新設 こども園	119	100	50	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		19	-		
久世 こども園	110	75	0	25	新設こども園又は 園専用給食センターから搬入
		35	-		
米来	50	35	0	28	新設こども園又は 園専用給食センターから搬入
		15	-		
計	298	229	69		
		69	-		

愛慈園	40	40	40	21	自園
		-	-		

新民間	122	仮 110	50	新築	自園
		12	-		

久世地域	460	379	159	← 想定受入人数の合計
計		81	126	← 現在の受入人数

- ・案②－3ベース
- ・「真庭市子ども・子育て支援施設整備計画」の基本的な方向性から、認定こども園の設置を選択
- ・0～2歳児の受入れがない久世こども園の現在の受入れ人数を考慮し、定員数を減らし、新設こども園にその分を増加

想定 4

- ・小規模保育事業所を新しく整備（場所は未定）
 - ・久世保育園、久世第二保育園を集約して**新しくこども園**を整備（場所は未定）
 - ・**新しい園に自園調理か他園（久世地域の公立園）を賄う規模の園専用給食センターを増設又は新しく園専用給食センターを整備し、他園へ提供**
 - ・草加部幼稚園、米来こども園の機能は久世こども園へ集約
- ※**小規模保育事業所**・・・定員 6～19 人、原則 0～2 歳児

園名	定員	保育園部	【想定】	建物 経年数	給食
		幼稚園部	0～2歳児受入数		
小規模 保育	19	19	19	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		-	-		
新設 こども園	140	125	50	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		15	-		
久世 こども	139	99	0	25	新設こども園又は 園専用給食センターから搬入
		40	-		
計	298	243	69		
		55	-		

愛慈園	40	40	40	21	自園
		-	-		

新民間	122	仮 110	50	新築	自園
		12	-		

久世地域	460	393	159	← 想定受入人数の合計
計		67	126	← 現在の受入人数

- ・案②ー4ベース
- ・「真庭市子ども・子育て支援施設整備計画」の基本的な方向性から、認定こども園の設置を選択
- ・0～2歳児の受入れがない久世こども園の現在の受入れ人数を考慮し、定員数を減らし、新設こども園にその分を増加

想定5

- ・久世保育園、久世第二保育園を集約して新しくこども園を整備（場所は未定）
- ・新しい園に自園調理か他園（久世地域の公立園）を賄う規模の園専用給食センターを増設又は新しく園専用給食センターを整備し、他園へ提供
- ・米来こども園、草加部幼稚園の機能は久世こども園へ集約

園名	定員	保育園部	【想定】	建物 経年数	給食
		幼稚園部	0～2歳児受入数		
新設 こども園	159	145	70	新築	自園又は 園専用給食センターから搬入
		14	-		
久世 こども	139	99	0	25	新設こども園又は 園専用給食センターから搬入
		40	-		
計	298	244	70	-	
		54	-		

愛慈園	40	40	40	21	自園
		-	-		

		仮			
新民間	122	110	50	新築	自園
		12	-		

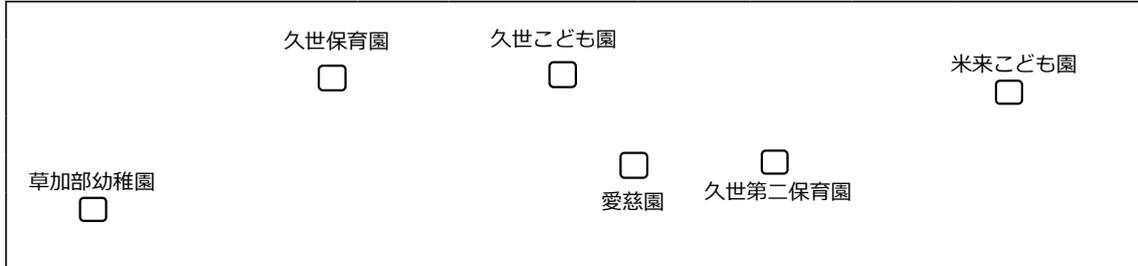
久世地域	460	394	160	← 想定受入人数の合計
計		66	126	← 現在の受入人数

- ・案②ー5ベース
- ・「真庭市子ども・子育て支援施設整備計画」の基本的な方向性から、認定こども園の設置を選択
- ・久世こども園の定員を「想定4」と同数に調整

久世地域の園整備のあり方について

現 状

立地イメージ



園名	部	定員		受入数 R4.12.1	建築年	建物 経年数	給食	備考1	備考2		
		全体	部								
久世保育園	—	80	80	108	S41.4	56	自園				
久世第二保育園	—	80	80	82	S48.8	49	自園				
久世こども園	保育園部	180	120	76	H9.2	25	遷喬共調	夏季休暇中の預かり保育は久世こども園で受入	園長兼務		
	幼稚園部		60	22							
草加部幼稚園	—	30	30	7	H17.2	17	遷喬共調				
米来こども園	保育園部	50	35	15	H6.8	28	久世中共調				
	幼稚園部		15	9							
計	保育園部	420	315	281	} 319						
	幼稚園部		105	38							
愛慈園（民間）	—	40	40	40			自園				
新民間こども園	保育園部	—	—	—	R6.2		自園				
	幼稚園部	—	—	—							
久世地域計	—	460	355	321	} 359						
			105	38							

※参考 久世地域の年齢別人口（0～5歳）推移（各年4月1日現在）

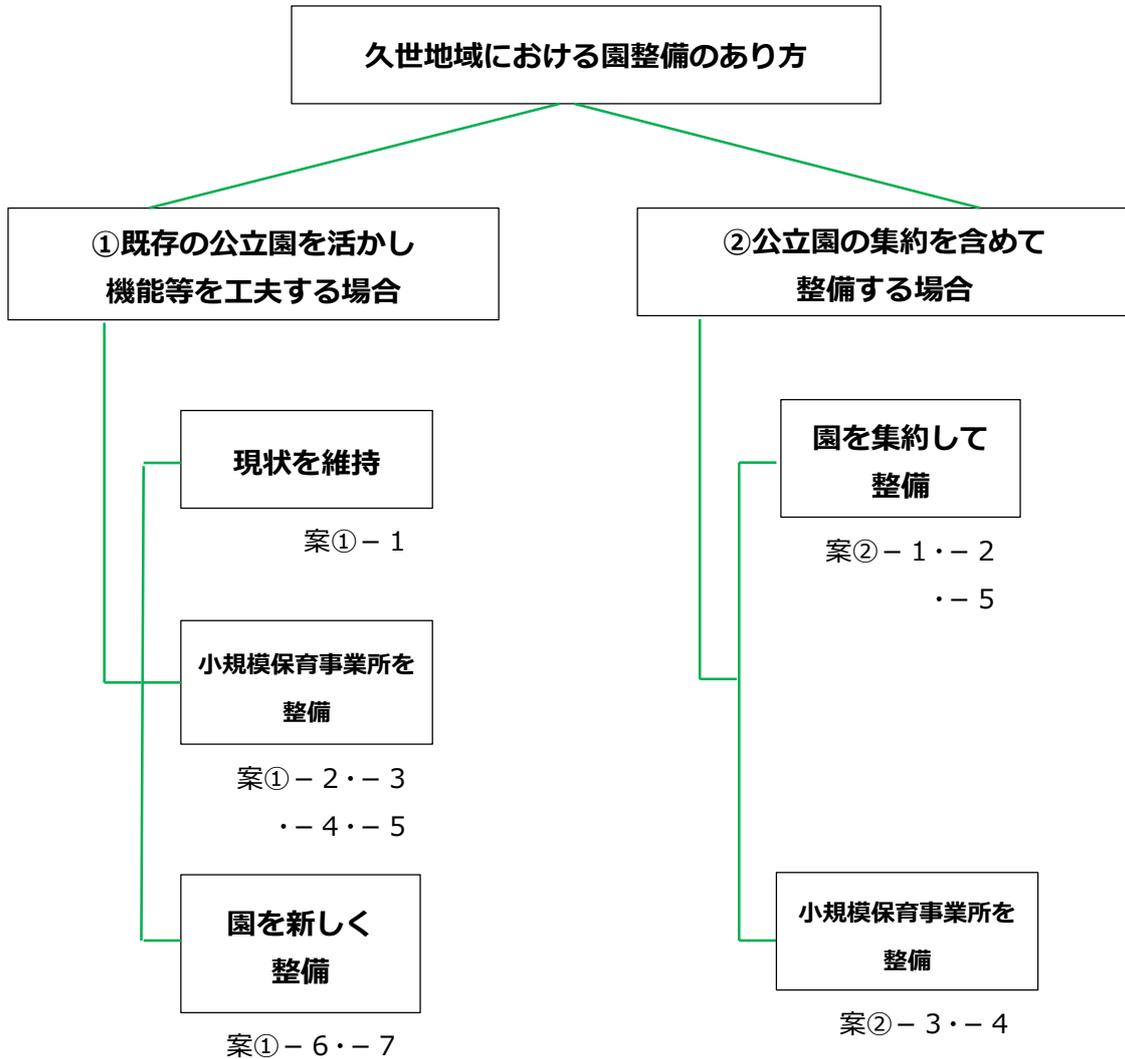
年齢	H30	R1	R2	R3	R4
0歳	98	80	81	89	88
1歳	79	95	79	86	87
2歳	105	78	91	82	82
3歳	87	97	71	88	82
4歳	73	84	96	69	89
5歳	94	69	82	99	68
計	536	503	500	513	496



※備考

- ・久世地域の園のみを利用しているわけではない
- ・久世地域の園には周辺地域からの利用もある

◇構成イメージ図



※次ページ以降の案について

- ・ 数値はあくまでも検討にあたっての目安です。
- ・ 新設・建て替えの場合について、本日は、設置場所にとらわれず協議を行います。

①既存の公立園を活かし機能等を工夫する場合

案①-1

・民間園が新しく設置されるが、既存園の配置や定員等に変更なし

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部		
草加部	30	-	-	共同調理場 から搬入
		30	7	
久世 保育	80	80	108	自園
		-	-	
久世 こども	180	120	76	共同調理場 から搬入
		60	22	
久世 第二	80	80	82	自園
		-	-	
米来	50	35	15	共同調理場 から搬入
		15	9	
計	420	315	281	
		105	38	

(観点から見た評価)

- ①老朽化→×
- ②0～2歳児の受入れ→○
- ③給食→×
- ④定員→×
- ⑤持続可能→×

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

		仮		
民間	122	110	-	自園
		12	-	

久世地域		465
計	582	117

(メリット)

・選択肢が広がる

(デメリット)

- ・既存施設の老朽化対応が必要
- ・久世保育園と新しい民間園の設置場所が近いため、送迎等で混乱も予測される
- ・人材確保が困難なことが想定される
- ・定員が大幅に超過する

案①-2

・久世保育園を小規模保育事業所に移行

※小規模保育事業所・・・定員 6～19 人、原則 0～2 歳児

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部		
草加部	30	-	-	共同調理場 から搬入
		30	7	
久世 保育	19	19	108	自園
		-	-	
久世 こども	180	120	76	共同調理場 から搬入
		60	22	
久世 第二	80	80	82	自園
		-	-	
米来	50	35	15	共同調理場 から搬入
		15	9	
計	359	254	281	
		105	38	

小規模保育事業所へ移行
現状 → 0～2 歳児 : 52 人

(観点から見た評価)

- ①老朽化→×
- ②0～2歳児の受入れ→○
- ③給食→×
- ④定員→×
- ⑤持続可能→×

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

		仮		
民間	122	110	-	自園
		12	-	

0～2 歳児 : 50 人 (予定)

久世地域	521	404
計		117

(メリット)

- ・選択肢が広がる
- ・0～2 歳児の受け皿が増える

(デメリット)

- ・既存施設の老朽化対応が必要
- ・久世保育園と新しい民間園の設置場所が近いため、送迎等で混乱も予測される
- ・定員が大幅に超過する

【課題】・現久世保育園の施設改修が必要

- ・予算確保 (財源確保)

案①-3

- ・久世保育園を小規模保育事業所に移行
 - ・久世こども園に給食施設を増設し、他園も賄う規模とする
 - ・草加部幼稚園、米来こども園の給食は新設する園から搬入
- ※小規模保育事業所…定員 6～19 人、原則 0～2 歳児

園名	定員	保育園部	受入数	給食
		幼稚園部	R4.12.1	
草加部	30	-	-	久世こども園 から搬入
		30	7	
久世 保育	19	19	108	自園
		-	-	
久世 こども	180	120	76	自園 (草加部・米来分も 賄う規模)
		60	22	
久世 第二	80	80	82	自園
		-	-	
米来	50	35	15	久世こども園 から搬入
		15	9	
計	359	254	173	
		105	38	

小規模保育事業所へ移行
現状 → 0～2 歳児 : 52 人

(観点から見た評価)

- ①老朽化→×
- ②0～2 歳児の受入れ→○
- ③給食→○
- ④定員→×
- ⑤持続可能→×

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

民間	122	仮		自園
		110	-	
		12	-	

0～2 歳児 : 50 人 (予定)

久世地域	521	404
計		117

(メリット)

- ・選択肢が広がる
- ・0～2 歳児の受け皿確保が増える
- ・給食については、園からの配送により、園児
向けの給食提供が可能

(デメリット)

- ・既存施設の老朽化対応が必要
- ・久世こども園の現有敷地での給食施設
増設は困難
- ・久世保育園と新しい民間園の設置場所
が近いため、送迎等で混乱も予測される
- ・定員が大幅に超過する

【課題】・現久世保育園の施設改修が必要

- ・予算確保 (財源確保)

案①-4

- ・久世保育園を小規模保育事業所に移行
- ・保育園として新しく整備（場所は未定）

※小規模保育事業所…定員 6～19 人、原則 0～2 歳児

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部		
草加部	30	-	-	共同調理場 から搬入
		30	7	
久世 保育	19	19	108	自園
		-	-	
久世 こども	180	120	76	共同調理場 から搬入
		60	22	
新設 保育園	80	80	-	自園
		-	-	
米来	50	35	15	共同調理場 から搬入
		15	9	
計	359	254	199	
		105	38	

小規模保育事業所へ移行
現状 → 0～2 歳児：52 人

（観点から見た評価）

- ①老朽化→△
- ②0～2 歳児の受入れ→○
- ③給食→×
- ④定員→×
- ⑤持続可能→×

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

民間	122	仮	-	自園
		110	-	
		12	-	

0～2 歳児：50 人（予定）

久世地域	521	404
計		117

（メリット）

- ・選択肢が広がる
- ・0～2 歳児の受け皿が増える
- ・施設の老朽化の課題が一部解消できる

（デメリット）

- ・久世保育園と新しい民間園の設置場所が近いため、送迎等で混乱も予測される
- ・定員が大幅に超過する

【課題】・現久世保育園の施設改修が必要 ・建設場所の検討が必要
・予算確保（財源確保）

案①-5

- ・久世保育園を小規模保育事業所に移行
 - ・久世こども園に0～2歳児の受入れ可能とするため施設を増設する
 - ・久世こども園に給食施設を増設し、他園も賄う規模とする
 - ・草加部幼稚園、米来こども園の給食は新設する園から搬入
- ※小規模保育事業所…定員6～19人、原則0～2歳児

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部		
草加部	30	-	-	久世こども園 から搬入
		30	7	
久世 保育	19	19	108	自園
		-	-	
久世 こども	180	150	76	自園 (草加部・米来分も 賄う規模)
		30	22	
久世 第二	80	80	82	自園
		-	-	
米来	50	35	15	久世こども園 から搬入
		15	9	
計	359	284	173	
		75	38	

小規模保育事業所へ移行
現状 → 0～2歳児：52人

保育園部：120→150
(内訳 0～2歳児：50、3～5歳児：100)
幼稚園部：60→30

(観点から見た評価)

- ①老朽化→×
- ②0～2歳児の受入れ→○
- ③給食→○
- ④定員→×
- ⑤持続可能→×

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

		仮		
民間	122	110	-	自園
		12	-	

0～2歳児：50人(予定)

久世地域	521	434
計		87

(メリット)

- ・選択肢が広がる
- ・0～2歳児の受け皿が増える
- ・給食については、園からの配送により、園児
向けの給食提供が可能

(デメリット)

- ・既存施設の老朽化対応が必要
- ・久世こども園の現有敷地での給食施設増設は困難
- ・久世保育園と新しい民間園の設置場所が近いため、送迎等で混乱も予測される
- ・定員が大幅に超過する

- 【課題】・現久世保育園の施設改修が必要
- ・予算確保(財源確保)

案①-6

- ・保育園またはこども園として新しく整備（場所は未定）
- ・新設園の給食施設は他園も賄う規模とする
- ・草加部幼稚園、久世こども園、米来こども園の給食は新設する園から搬入

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食	園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部					幼稚園部		
草加部	30	-	-	新設園 から搬入	新設 こども園	100	80	-	自園 (草加部・久 世・米来分も賄 う規模)
		30	7				20	-	
新設 保育園	80	80	-	自園 (草加部・久 世・米来分も賄 う規模)	久世 こども園	180	120	76	新設園 から搬入
		-	-				60	22	
久世第二	80	80	82	自園	米来	50	35	15	新設園 から搬入
		-	-				15	9	
計	420	315	173		計	440	315	173	
		105	38				125	38	

(観点から見た評価)

①老朽化→△

②0～2歳児の受入れ→○

③給食→○

④定員→×

⑤持続可能→×

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

民間	122	仮		自園
		110	-	
		12	-	

久世地域 計	582	465
		117

久世地域 計	602	465
		137

(メリット)

- ・0～2歳児の受け皿が増える
- ・久世保育園の老朽化の課題が解消できる
- ・給食については、新設する園からの配送により、園児向けの給食提供が可能

(デメリット)

- ・他園を賄う規模の給食施設が必要
- ・定員が大幅に超過する
- ・久世第二保育園の老朽化対応が必要
- ・場合によっては用地取得が必要

【課題】・建設場所の検討が必要

・予算確保（財源確保）

案①-7

- ・保育園として2園またはこども園と保育園として新しく整備(場所は未定)
- ・いずれかの新設園の給食施設は他園も賄う規模とする
- ・草加部幼稚園、久世こども園、米来こども園の給食は新設する園から搬入

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食	園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部					幼稚園部		
草加部	30	-	-	新設保育園(1) から搬入	新設 こども園	100	80	-	自園 (草加部・久 世・米来分も賄 う規模)
		30	7				20	-	
新設 保育園 (1)	80	80	-	新設保育園(1) から搬入	新設 保育園 (2)	80	80	-	自園
		-	-				-	-	
久世 こども園	180	120	76	新設保育園(1) から搬入	新設 保育園 (2)	80	80	-	自園
		60	22				-	-	
米来	50	35	15	新設保育園(1) から搬入	計	440	315	91	
		15	9				125	38	
計	420	315	91				105	38	

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

民間	122	仮		自園
		110	-	
		12	-	

久世地域 計	582	465
		117

久世地域 計	602	465
		137

(観点から見た評価)

- ①老朽化→○
- ②0～2歳児の受入れ→○
- ③給食→○
- ④定員→×
- ⑤持続可能→×

(メリット)

- ・0～2歳児の受け皿が増える
- ・施設の老朽化の課題が解消できる
- ・給食については、新設する園からの配送により、園児向けの給食提供が可能

(デメリット)

- ・他園を賄う規模の給食施設が必要
- ・定員が大幅に超過する
- ・場合によっては用地取得が必要

【課題】・建設場所の検討が必要

- ・予算確保(財源確保)

②公立園の集約を含めて整備する場合

案②-1

- ・保育園として2園またはこども園と保育園として新しく整備(場所は未定)
- ・草加部幼稚園の機能は久世こども園へ集約
- ・いずれかの新設園の給食施設は他園も賄う規模とする
- ・久世こども園、米来こども園の給食は新設する園から搬入

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食	園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部					幼稚園部		
新設 保育園 (1)	80	80	-	自園 (草加部・久世・米来分も賄う規模)	新設 こども園	100	80	-	自園 (草加部・久世・米来分も賄う規模)
		-	-				20	-	
久世 こども園	180	120	76	新設保育園(1) から搬入	新設 保育園 (2)	80	80	-	自園
		60	22				-	-	
米来	50	35	15	新設保育園(1) から搬入	計	390	315	91	
		15	9				75	31	
計	390	315	91		計	410	315	91	
		75	31				95	31	

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

民間	122	仮	-	自園
		110	-	
		12	-	

久世地域 計	552	465	
		87	

久世地域 計	572	465	
		107	

(観点から見た評価)

- ①老朽化→○
- ②0～2歳児の受入れ→○
- ③給食→○
- ④定員→×
- ⑤持続可能→△

(メリット)

- ・施設の老朽化の課題が解消できる
- ・給食については、新設する園からの配送により、園児向けの給食提供が可能

(デメリット)

- ・他園を賄う規模の給食施設が必要
- ・定員が大幅に超過する
- ・場合によっては用地取得が必要

【課題】・建設場所の検討が必要

- ・予算確保(財源確保)

案②-2

- ・久世保育園、久世第二保育園を集約して新しく保育園またはこども園を整備（場所は未定）
- ・草加部幼稚園の機能は久世こども園へ集約
- ・久世こども園と米来こども園の給食は新設する保育園から搬入

園名	定員	保育園部	受入数	給食
		幼稚園部	R4.12.1	
新設 保育園	120	120	-	自園 (久世・米来分 も賄う規模)
		-	-	
久世 こども園	128	100	76	新設保育園 から搬入
		28	22	
米来	50	35	15	新設保育園 から搬入
		15	9	
計	298	255	91	
		43	31	

園名	定員	保育園部	受入数	給食
		幼稚園部	R4.12.1	
新設 こども園	120	105	-	自園 (久世・米来分 も賄う規模)
		15	-	
久世 こども園	128	100	76	新設こども園 から搬入
		28	22	

計	298	240	91	
		58	31	

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

		仮		
民間	122	110	-	自園
		12	-	

久世地域 計	460	405
		55

久世地域 計	460	390
		70

(メリット)

- ・施設の老朽化の課題が解消できる
- ・給食については、新設する保育園からの配送により、園児向けの給食提供が可能
- ・現在の定員規模と同数になる

(デメリット)

- ・他園を賄う規模の給食施設が必要
- ・場合によっては用地取得が必要

【課題】・建設場所の検討が必要

- ・予算確保（財源確保）

案②-3

- ・小規模保育事業所を新しく整備（場所は未定）
 - ・久世保育園、久世第二保育園を集約して新しく保育園またはこども園を整備（場所は未定）
 - ・新設園の給食施設は他園も賄う規模とする
 - ・草加部幼稚園の機能は久世こども園へ集約
- ※小規模保育事業所・・・定員 6～19 人、原則 0～2 歳児

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部		
小規模 保育	19	19	-	自園
		-	-	
新設 保育園	100	100	-	自園 (久世・米来分も賄う規模)
		-	-	
久世 こども園	129	100	76	新設保育園 から搬入
		29	22	
米来	50	35	15	新設保育園 から搬入
		15	9	
計	298	254	91	
		44	31	

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部		
新設 こども園	100	85	-	自園 (久世・米来分も賄う規模)
		15	-	
計	298	239	91	
		59	31	

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	
		仮		
民間	122	110	-	自園
		12	-	

久世地域 計	460	404	
		56	

久世地域 計	460	389	
		71	

(メリット)

- ・施設の老朽化の課題が解消できる
- ・0～2歳児の受け皿が増える
- ・給食については、新設する保育園からの配送により、園児向けの給食提供が可能
- ・現在の定員規模と同数になる

(デメリット)

- ・他園を賄う規模の給食施設が必要
- ・場合によっては用地取得が必要

【課題】・建設場所の検討が必要

- ・予算確保（財源確保）

案②-4

- ・小規模保育事業所を新しく整備（場所は未定）
 - ・久世保育園、久世第二保育園を集約して新しく保育園またはこども園を整備（場所は未定）
 - ・新設園の給食施設は他園も賄う規模とする
 - ・草加部幼稚園、米来こども園の機能は久世こども園へ集約
- ※小規模保育事業所…定員 6～19 人、原則 0～2 歳児

園名	定員	保育園部	受入数	給食
		幼稚園部	R4.12.1	
小規模 保育	19	19	-	自園
		-	-	
新設 保育園	140	140	-	自園 (他園分も賄う規模)
		-	-	
久世 こども	139	99	76	新設保育園 から搬入
		40	22	
計	298	258	76	
		40	22	

園名	定員	保育園部	受入数	給食
		幼稚園部	R4.12.1	
新設 こども園	140	125	-	自園 (他園分も賄う規模)
		15	-	
計	288	233	76	
		55	22	

園名	定員	保育園部	受入数	給食
		幼稚園部		
愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

園名	定員	飯	給食	
		110		-
		12		-

久世地域 計	定員	保育園部
		幼稚園部
460	408	
	52	

久世地域 計	定員	保育園部
		幼稚園部
450	383	
	67	

(メリット)

- ・施設の老朽化の課題が解消できる
- ・0～2歳児の受け皿が増える
- ・給食については、新設する保育園からの配送により、園児向けの給食提供が可能
- ・現在の定員規模と同数になる

(デメリット)

- ・他園を賄う規模の給食施設が必要
- ・場合によっては用地取得が必要
- ・選択肢が減る

【課題】・建設場所の検討が必要

- ・予算確保（財源確保）

案②-5

- ・久世保育園、久世第二保育園を集約して新しく保育園
またはこども園を整備（場所は未定）
- ・新設園の給食施設は他園も賄う規模とする
- ・米来こども園、草加部幼稚園の機能は久世こども園へ集約
- ・久世こども園の給食は新設する園から搬入

園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食	園名	定員	保育園部	受入数 R4.12.1	給食
		幼稚園部					幼稚園部		
新設 保育園	160	160	-	自園 (他園分も賄う 規模)	新設 こども園	160	145	-	自園 (他園分も賄う 規模)
		-	-				15	-	
久世 こども	138	100	76	新設保育園 から搬入	計	298	245	76	
		38	22				53	22	
計	298	260	76						
		38	22						

愛慈園	40	40	40	自園
		-	-	

		仮		
民間	122	110	-	自園
		12	-	

久世地域	460	410
計		50

久世地域	460	395
計		65

(メリット)

- ・施設の老朽化の課題が解消できる
- ・給食については、新設する保育園からの配送により、園児向けの給食提供が可能
- ・現在の定員規模と同数になる

(デメリット)

- ・他園を賄う規模の給食施設が必要
- ・場合によっては用地取得が必要

【課題】・建設場所の検討が必要

- ・予算確保（財源確保）